



六劫龍亭参左古

烟まき入るつゆも白くその峰
そりろわくも落きぬの袖

悟智宗
後満

銀させる蛇の月の
丁さるるつゆの
こぬの落きぬ



五三

家ありあつてゐる

うゑう

仙竇堂改
枋木 壺峯樓高尺

守川拾魚

あつゝ妻よひとむしの
月うけは燈んそまも
ひるゆゑつひ

神歌堂定岡

うあうううひうの
日のうけゆううううや
ううう夕あ



うろろろ　まぜー
どおりの　わろやうて
さそろけく　おを　あか　か　るに

花前亭友賴





あつたのまうとさけつておのれいゝとてさうさうの門の戸 妻 門
 門の戸とさうさうとておのれいゝとてさうさうの門の戸 妻 門
 つとておのれいゝとてさうさうとてさうさうの門の戸 妻 門
 あつたのまうとさけつておのれいゝとてさうさうの門の戸 妻 門
 めつたのまうとさけつておのれいゝとてさうさうの門の戸 妻 門
 さうさうのまうとさけつておのれいゝとてさうさうの門の戸 妻 門
 みつたのまうとさけつておのれいゝとてさうさうの門の戸 妻 門
 さうさうのまうとさけつておのれいゝとてさうさうの門の戸 妻 門
 実方のまうとさけつておのれいゝとてさうさうの門の戸 妻 門
 秘つたのまうとさけつておのれいゝとてさうさうの門の戸 妻 門
 月のまうとさけつておのれいゝとてさうさうの門の戸 妻 門
 あつたのまうとさけつておのれいゝとてさうさうの門の戸 妻 門

離

うゝのうゝ

房弘

略 ちたふ
ふようさむ
あたのふや



トキキ
三

上毛今京

升

房

袖

反

ヲカサキ

義在

交

皇

万

品

成 子 成 羽 成 登 羽 成 弘 成 英 九

力守

まゝの

あそち代々や

保女

三

あねがき

遁文

ふなひも

凡そ金の

三

三

因こゝろ

る

桶

變 部 系

花 成
 子 村
 海 玄
 走
 梅
 丸
 外 成
 子 柳 庵
 東曲庵發守
 文門亭近發
 宋 守
 記 丸

大

卷之四

まききり

きりきり

きりきり

きりきり

神棚の灯

カヌ

浅草園

神棚の

きりきり

きりきり

きりきり



神棚

あーんこのせうつとて様とまもりせー級うのー帝

まききりきりきりきり天井は丸あーんのてーと月うけ

あーんのまききりあーんけーめけのあーんおまきせーも

ひーもせーひーもきりきり計あーん丸あーんの月のちうま

使きりきり神棚のねうまきりきりあーんや竜燈のうけ

よーんこの神棚きりきりあーんいーんきりきりあーん

あーんのあーんきりきりあーんあーんあーんあーんあーん

あーんあーんあーんあーんあーんあーんあーんあーん

あーんあーんあーんあーんあーんあーんあーんあーん

あーんあーんあーんあーんあーんあーんあーんあーん

あーんあーんあーんあーんあーんあーんあーんあーん

あーんあーんあーんあーんあーんあーんあーんあーん

あーんあーんあーんあーんあーんあーんあーんあーん

あーんあーんあーんあーんあーんあーんあーんあーん

あーんあーんあーんあーんあーんあーんあーんあーん

あーんあーんあーんあーんあーんあーんあーんあーん

あーんあーんあーんあーんあーんあーんあーんあーん

左

右

丸

不

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

之
之
之
之

朝と夕の

ありんや

木更の里

あ珠の
月の輪

之
經の

永々々々

三の戸は

ねむのき

張之洞

反
𩺰

看經

あはてては神よとてさうさうのうはささぬひうのうにせり
あはれたりの光りやうううんよとてあうたふらの燈籠
ぬくまのやうのうさうに神棚はかま燈籠の月ひあうり
めてさうみ林あうさうは天さうの神のさあふよことひとあ
天さうの神よさうさうとあうの星とさうさうさうの不二
うさうのあふみさあふみ仏おさうさうさうさうのうさうの虫
る戸ともふめてあううあひううかんせん仏さうあ珠のさ
病は名とてううてありかんせんさうさうさうのさうのね虫
あはのうさうさうの時の看経はさうのうさうのさうのさう
かんせんのおい木のねのうさうさうさうさうさうのさうの
さうのさうさうのねおのうさうさうの眉のさうのねのさう
あさうさうさうさうのねのうさうのさうのさうのさうのさう
近

陳九村芳重堯據弘成

三十九

卷之四

ちのち

夢

抄

うゝちや
うゝの
みゝゝ

あれの猪ふぶうけてあふ
こころなけぬくれさるゝ
まやまつゝん

来

修

岡子夫

玉声亭銘成

倭文屋

方

夜

綾

拔

美

友

一

野七

下^タ

住

ねえの国 二七六

かよる

夏のみそ

まゐるを

つるせう

房弘

うきうき

夏より

浮川

かき
の
ま
や

おちなる



かたきと

うゝくあひのふしうたにちんくよとうまゆふ
かひのひんのふしうたにちんくよとうまゆふ
とめよりけむりおちて奉のものふるうそ 稽の三日月

力 纒 極
子 全 九

玉をばとるはやとめ子うめまをまも耳あふ猫

梅
の
屋

そのまゝは吾人の妻の生田川
かたゝゝとてうねやうみ名のあ

霍子

信子ありあるをきりよこしく
 高やゆふのうけし

子
下
亭

[illegible]

卷之八

五ノミナモト

21

[illegible]

十

あ社の自由も出てゐる。娘も夏みくめうえの曲

春
和

かたあゝとまゝもあつて天人^{てんじん}をうくまひぬ^ぬ娘^{むすめ}うつくし

山
梯
亭

かゝるものゝ夏との衣類と小
娘は母であつてつ葉も松風

志

三つのおのゝうへや
あふれもさるみえ
とよ玉川の曲

不老園

卷之二

卷之四

Handwritten signature or scribble.

凡そ
まづ
その
中

Handwritten notes:

- 907
- 人
- う
- う
- う



ちのめたええもかゝ人まゝのせちなうのちと
 むうとあけうにあもれちやうとせぬのいせ相違

[illegible]

梅子とよ

うてねよりいふあはれも肩をうりておのへとくる菊の花よめ
あふこゝろとあてゑあはれちうけの目もてさくる難やう門

よめさるゝとてうつく風のほろゝは糸のたるまによひのすきり
木魚うとてきんあくまのてくまるわもふくへの上はうろたる

松風の夏うのきよせぬ香のうよ昨のうえうく梅をともよみ

あとうたのつゆあまのほのきやめたてまつるのふゆふゆ

か女の
おろし

とりゝ火の蒸の下やまゝゝゝ入祈つゝか女かんさの情

万
子

山極 其

いふれあふあふ
麻の うえのまふ
よひてりまふ

ひささこの
天の窓戸と
こころの
あふ
跡成

接テよひさう



いふれあふ
むくさふ
みねあふ
かめあふ
さふ

万宝

ふさあふのあふあふあふあふ
うさあふのあふあふあふあふ
外成



うのいの 万守

花田のい

神仕業

ぬいさして

うのい

さうい

梅の玉

うのいの

むのい

うのいの

まのい

うのい



計ひとうぬい栗花あうう系より細記ふまはこれとも 万
 秘もやうつまうかへうと徳上への長門本ともふふあうぬう 全
 とううの海は丁子のひのうけとううと書いよめう旅日記 内
 うのいのひのうけとううと書いよめう旅日記 同 玉声亭於成
 ひとさうとううのひのうけとううと書いよめう旅日記 石 雄
 うのいのひのうけとううと書いよめう旅日記 松 店
 うのいのひのうけとううと書いよめう旅日記 スミ 小松子代彦
 うのいのひのうけとううと書いよめう旅日記 瓢庵百成
 うのいのひのうけとううと書いよめう旅日記 系 壺
 うのいのひのうけとううと書いよめう旅日記 仙舟 子路
 うのいのひのうけとううと書いよめう旅日記 後 壺
 うのいのひのうけとううと書いよめう旅日記 万 櫛
 うのいのひのうけとううと書いよめう旅日記 古 櫛

四一六

[illegible]

造
年
子
示

□
□

10

內成

11

...

糸光

あうううううねばううううう
あううううううううううう

六系固保樹

里

樞

子柳亭

五

數
益

梅
後

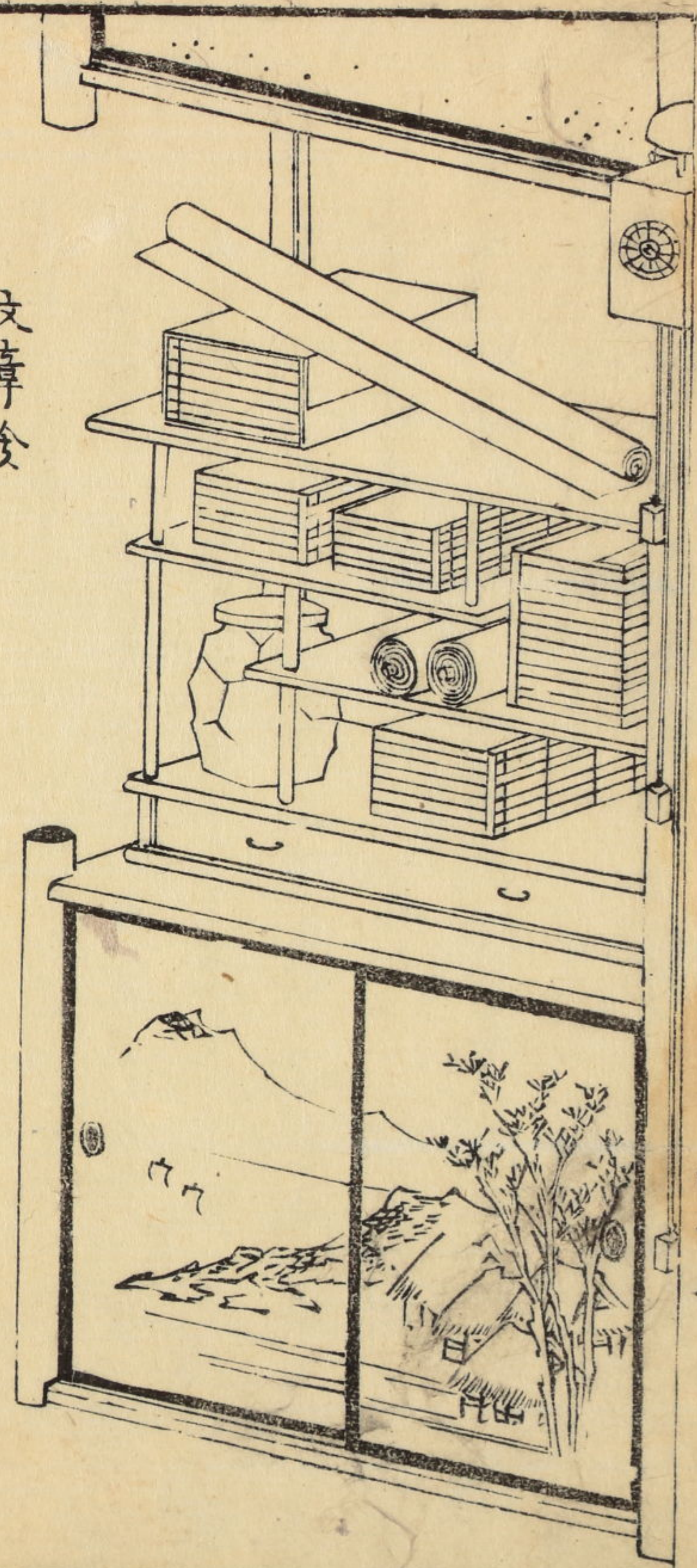
七代

養左古

万
五

樓

丸



文章金
心世

九つ

十のひとねり

一つのうし

すゝめ

丈敷金
屋丸

あゝあゝね

こゝろは唐てあ

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ

九つ時

おのあ

外やあまけし風由一生の刃をへるけの機よ

よとあまねるおまこの器一たうま主のあまのつ

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

ううううううううううううううううううううう

あまのうううううううううううううううううううう

夫の園宝つふともあめめとふれあまあまあまあまあま

いふせうのあまのあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

飯沼

姓名形

和跏樓信立

里

龜登亭美兵

上

あ

尋蹤亭村立

雅

外

成

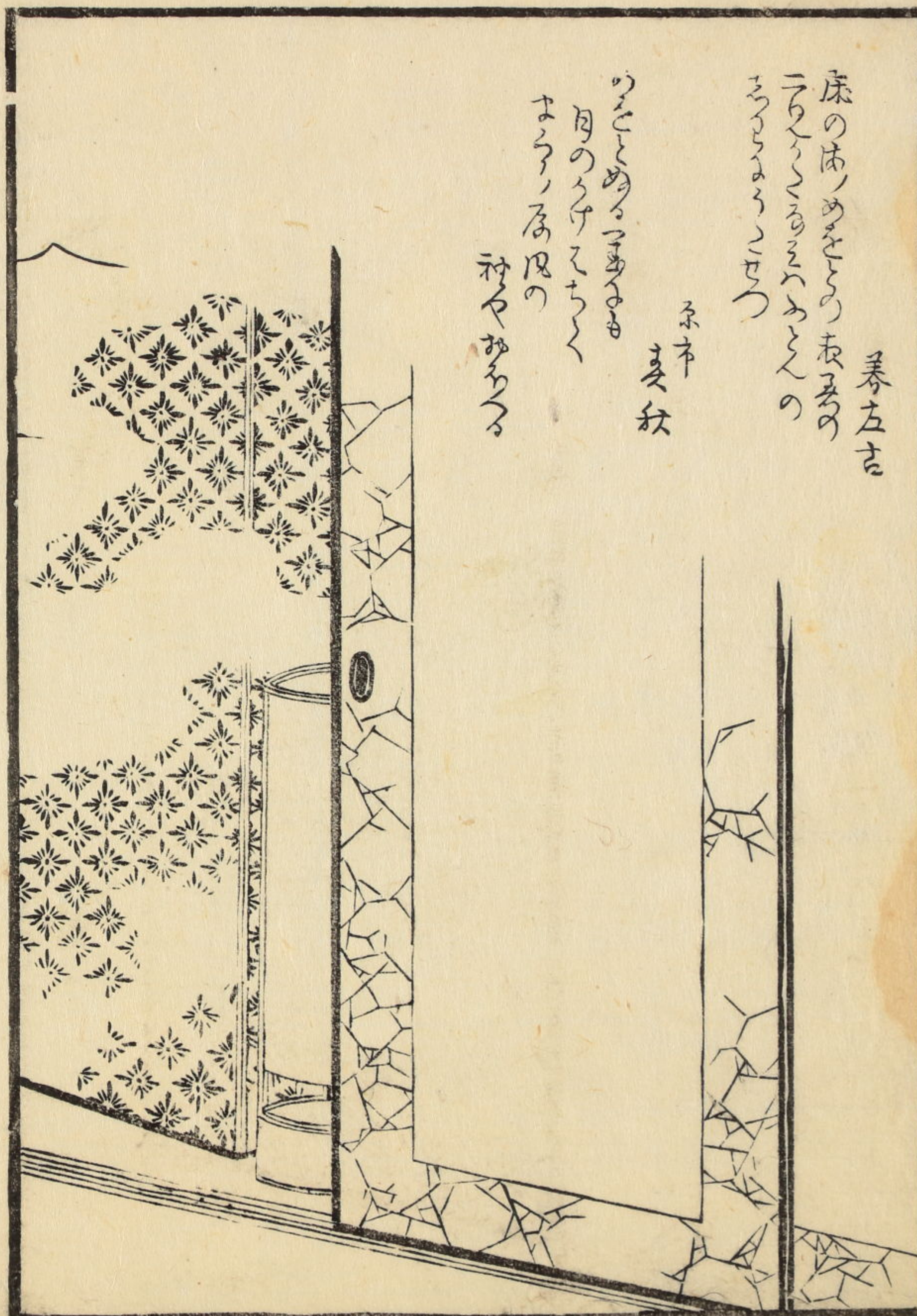
花垣

佐

夢

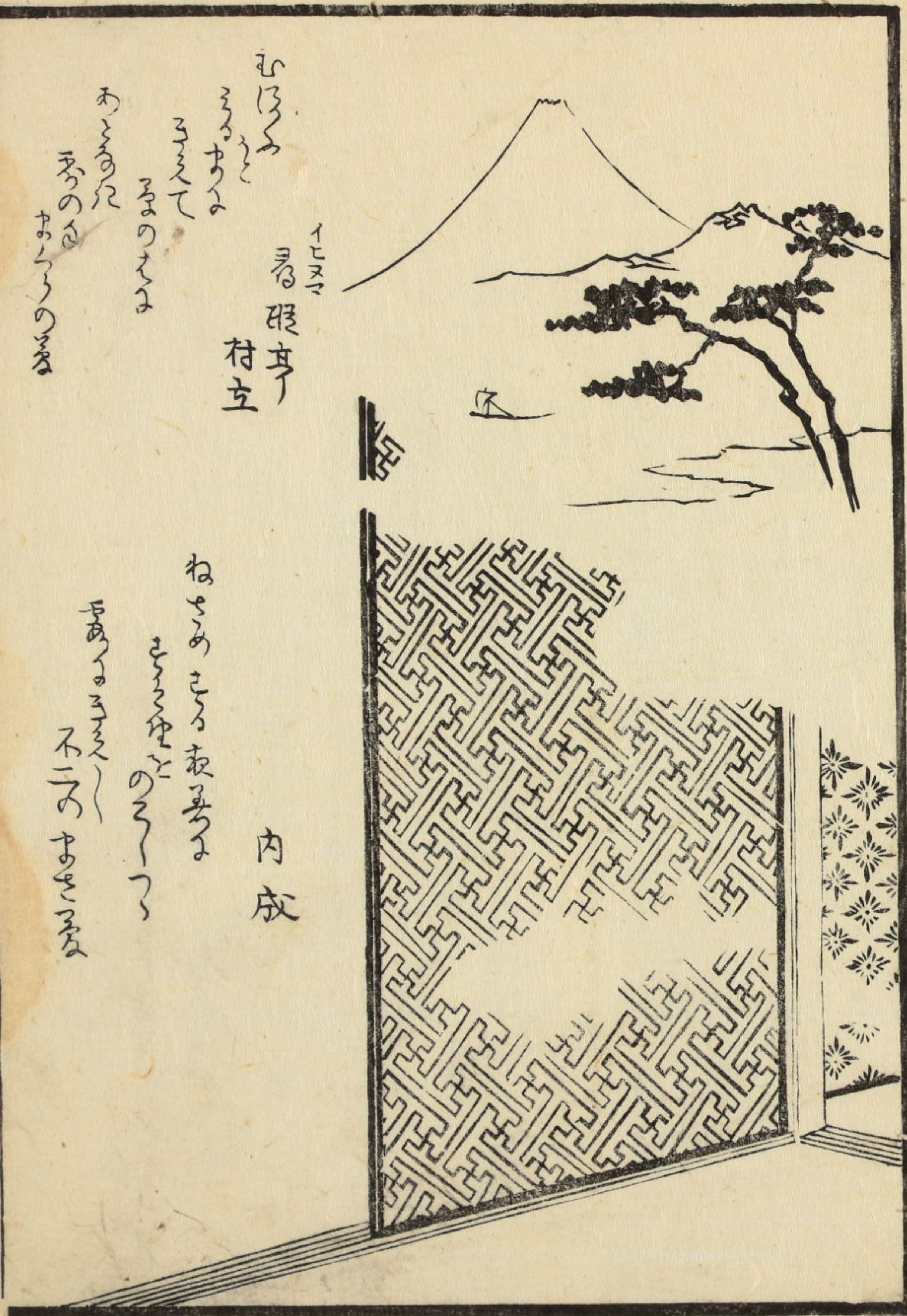
床のほめをとり衣の
とりをとり衣の
とりをとり衣の

つとめたるこゝろも
月のうけこちう
まうゝ居ぬの
神やあはる



けふ
 ろう
 あは
 るえて
 まのまは
 あとあは
 まのま
 おくらのま

ねこめころねまふ
さうそゆと
のうーっ
うあうううう
不二のうさぎ



あふたの
鶏あり

あふたの鶏あり

下毛

子 村
延日菴本住

天の戸をあけ

里 住

天の戸をあけ

里 住

ひたすことあけ

米 ち

あまの戸をあけ

村 立

あふたの鶏あり

成

とくおいておまをた

保 樹

とくおいておまをた

保 樹

あふたの鶏あり

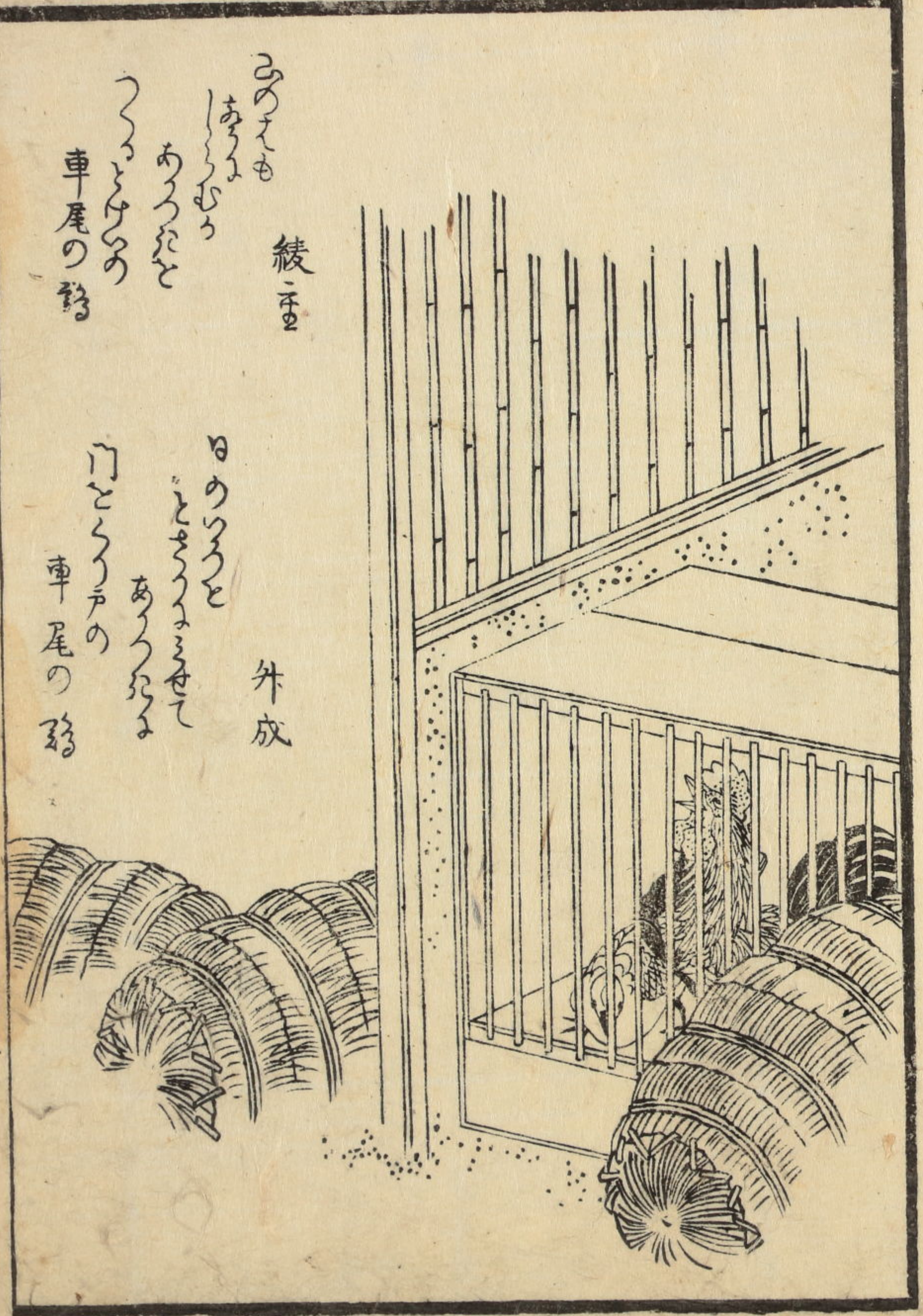
綾 主

あふたの鶏あり

綾 主

かへちんはき

つ ち 九



あふたの
鶏あり

綾 主

あふたの
鶏あり

あふたの
鶏あり

車尾の
鈴

あふたの
鶏あり

あふたの
鶏あり

車尾の
鈴

如子健

歌

三

あつたの

三

する

仙府

一

内

成

小龍

系

如

文樹園集

保

樹

大田樓里石



文々舎 蟹子力

文齡舍松世

狂歌百人一首

大本 文々舎大人撰
一冊 岳亭春信画

画入

よと本

狂歌詠咏寄譚

全 萩の屋大人撰
部 梅の屋大人撰
八 十代の屋大人撰
冊 岳亭春信画

夢の
浮世

白壁草帑

初編 東里山人作
三冊 岳亭春信画

一休一世譚

初編
三冊 八島岳亭作

○右のろゝむ近日賣出〜

耕文堂

狂歌晝夜行事集

撰者 葛飾 文々舎蟹子丸

畫者 八島 岳亭定岡

書房

東都麹町平川三丁目

同

横山町二丁目

角丸 屋甚助

川村儀右衛門

